

2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 株式会社ホットランド 上場取引所 東
コード番号 3196 URL http://www.hotland.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐瀬 守男
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経営管理本部長 (氏名) 武藤 靖 TEL 03(3553)8885
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第3四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	33,825	18.8	2,103	23.4	2,363	3.0	1,253	18.3
2023年12月期第3四半期	28,469	20.2	1,704	27.0	2,294	△7.3	1,059	△27.5

(注) 包括利益 2024年12月期第3四半期 1,149百万円 (△20.6%) 2023年12月期第3四半期 1,448百万円 (△38.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	58.96	-
2023年12月期第3四半期	48.94	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期第3四半期	26,513	11,725	41.9	522.52
2023年12月期	23,713	10,756	43.4	484.03

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 11,109百万円 2023年12月期 10,284百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	-	0.00	-	10.00	10.00
2024年12月期	-	0.00	-	-	-
2024年12月期(予想)	-	-	-	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	16.2	2,800	25.3	2,750	4.3	1,450	42.0	68.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年12月期3Q	21,655,600株	2023年12月期	21,655,600株
② 期末自己株式数	2024年12月期3Q	393,835株	2023年12月期	408,244株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年12月期3Q	21,254,255株	2023年12月期3Q	21,655,345株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有 (任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

[期中レビュー報告書]

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、為替変動や物価高等の影響が続く状況ではあったものの、コロナ禍からの経済活動の正常化が進む中で雇用・所得環境の改善の動きが見られる等、緩やかな回復基調となりました。一方、海外においては、米国経済は堅調に推移しているものの、ロシア・ウクライナ情勢や中東情勢、中国経済の成長鈍化等の下振れリスクを抱え、先行き不透明な状況で推移いたしました。また、外食産業におきましては、経済活動の正常化による人流の回復やインバウンド需要の増加により好調に推移しておりますが、原材料価格や人件費の高騰に加えて、継続的な物価上昇による消費者の節約志向が強まる等、経営環境の回復は緩やかなものに留まっております。

このような状況下、当社グループは、2023年度から2027年をターゲットとした「中期経営計画」に基づき、既存事業の深化と今後を見据えた新業態・新事業の開発、育成、成長に引き続き取り組んだ結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は33,825百万円（前年同期比18.8%増）、営業利益は2,103百万円（前年同期比23.4%増）となりました。また、為替予約の時価評価による為替差益等の計上により、経常利益は2,363百万円（前年同期比3.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,253百万円（前年同期比18.3%増）となりました。

なお、当社グループの報告セグメントは従来は飲食事業の単一セグメントでありましたが、第2四半期連結会計期間に新たにリゾート事業を開始したことにより、第2四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を「飲食事業」と「リゾート事業」の2区分に変更しております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<飲食事業>

「築地銀だこ」事業においては、ロサンゼルス・ドジャースで活躍を続ける大谷翔平選手の誕生日である7月5日より、ロサンゼルス・ドジャースと共同で開発し、ドジャー・スタジアム限定で販売していた商品『Cheese & Guacamole (チーズ&ワカモレ)』を日本国内で発売開始し、発売を記念して、5日～7日の3日間、銀だこスタンプカードの『スタンプ2倍キャンペーン』を実施、7月12日より、Uber Eats Japan合同会社が運営するUber Eatsで、“BUY1 GET1 FREE”「ねぎマヨ（特製ソース）を1つ頼むと1つ無料キャンペーン」を国内の築地銀だこ236店舗（銀だこハイボール酒場等の酒場業態54店舗含む）にて実施いたしました。7月31日からは、全国の築地銀だこ店舗（一部店舗を除く）にて夏の恒例イベント『銀だこ祭り』を開催し、7月31日～8月2日の3日間、創業以来人気No.1の“ぜったいうまい!! たこ焼（ソース 8個入り）”が100円引き!」、さらに、8月3日と4日の2日間、スタンプが貯まるとたこ焼が無料でもらえる「銀だこスタンプカード」の“スタンプ2倍”を実施したほか、8月8日の『銀だこの日』は、全国の築地銀だこ店舗（一部店舗を除く）にて、昨年に引き続き今年も「各店先着88名様に、“ぜったいうまい!! たこ焼（ソース 8個入り）”を、1舟88円”でご提供する年に一度の特別イベントを実施いたしました。また、8月9日から11月8日までの期間、全国の築地銀だこ店舗（一部店舗を除く）にてTVアニメ『【推しの子】』とのコラボレーション、8月13日より築地銀だこ店舗で使える“ぜったいうまい!! たこ焼（ソース 8個入り）”1舟引換チケット×2枚を友だちに贈ると、自分も“ぜったいうまい!! たこ焼（ソース 8個入り）”1舟引換チケット”がもらえる「夏のLINEギフトキャンペーン」、8月28日より明星食品株式会社が発売している「明星 一平ちゃん夜店の焼そば」とのコラボレーション企画を実施したほか、9月6日には9と6（クロ）＝『クロワッサンたい焼の日』を記念し、全国の築地銀だこ・銀のあんのクロワッサンたい焼取扱店舗（一部店舗を除く）で「クロワッサンたい焼6匹入りセット」を、「クロ（96）」にちなみ1箱6匹入り960円（税抜）/1,036円（税込）の特別価格で販売いたしました。さらに、ロサンゼルス・ドジャース大谷翔平選手の“50 / 50（ホームラン数 / 盗塁数）”達成を記念して、9月21日より全国の築地銀だこ店舗（該当商品取扱店舗のみ一部店舗を除く）にて、『Cheese & Guacamole (チーズ&ワカモレ 8個入り)』を税込価格より、50+50＝“100円引き!”のキャンペーンを実施いたしました。こうした積極的な販売促進の取り組みにより、当第3四半期連結累計期間における既存店売上高前年比は105.2%となりました。なお出店については、1月に「イーアスつくば店」、6月に「小倉競馬場店」、8月に「ゆめタウン高松店」をオープンいたしました。

酒場事業を展開する株式会社オールウェイズにおいては、通常の販売促進や商品開発・メニュー改定等に加え、人流の回復やインバウンド需要の増加もあり、各業態ともに引き続き好調に推移いたしました。また、5月21日から23日までと28日から30日までの計6日間、全国の銀だこ酒場業態店舗（銀だこハイボール酒場、銀だこ酒場、銀だこハイボール横丁等の一部店舗を除く）限定で『銀だこハイボール酒場 創業15周年記念祭』を開催したほか、昨年に引き続き、8月14日から9月10日までの期間、全国の銀だこハイボール酒場（一部店舗を除く 62店舗）にて、株式会社Cygamesが開発・運営するスマートフォン向けゲーム、アニメRPG『プリンセスコネクト! Re:Dive』とのコラボレーションを実施いたしました。さらに、2019年の「おでん屋たけし 池袋西口店」のオープンから今年で“5周年”を迎えた『おでん屋たけし』の開業5周年を記念した夏の感謝祭を開催いたしました。なお出店に

については、酒場事業の中でも特に利益率の高い「銀だこハイボール酒場」・「おでん屋たけし」の新規出店に注力し、1月に「銀だこハイボール酒場 成田駅前店」、2月に「銀だこハイボール酒場 豊洲千客万来店」、「銀だこハイボール横丁 新宿中央東口店」、「おでん屋たけし 中目黒店」、3月に「銀だこハイボール酒場 広島流川店」、「銀だこハイボール横丁 新宿歌舞伎町靖国通り店」、「おでん屋たけし 麻布十番店」、4月に「銀だこハイボール酒場 戸田公園店」及び「池袋西口店」、「おでん屋たけし 船橋駅南口店」、5月に「銀だこハイボール酒場 熊本三年坂店」及び「エキア竹ノ塚店」、6月に「銀だこハイボール酒場 富山駅前店」、「おでん屋たけし 新宿西口店」及び「松山大街道店」、7月に「銀だこハイボール酒場 大宮西口タワー店」、8月に「銀だこハイボール酒場 広島立町店」及び「王子駅前店」をそれぞれオープンいたしました。また、4月には株式会社ファンインターナショナルが京都と大阪で展開し、和の食文化として人気の高い“すき焼き”をリーズナブルに楽しめると海外のお客様を中心にSNSで大人気のお店となっている「大衆すき焼 北斗」の東京1号店として「銀座コリドー店」を出店したほか、「ごっつい」としては久々の出店となる「新橋鳥森店」を5月に、さらに「日本再生酒場 中野店」を9月にオープンいたしました。なお、7月に名古屋市内において「昇家」5店舗、「李昇 本館」、「ホルモンショウヤ」の計7店舗の焼肉店を展開している株式会社ショウエイの全株式を取得し、子会社化いたしました。

主食事業を展開する株式会社ホットランドネクステージにおいては、「東京油組総本店<油そば>」をはじめとした既存業態が引き続き好調に推移いたしました。なお出店については、2月に「東京油組総本店<油そば> 小倉組」、「鶏そば炭や 新橋店」、3月に「十割そば 囲炉裏 つくば店」、4月に「東京油組総本店<油そば> イオンモール太田組」、「十割そば 囲炉裏 豊洲千客万来店」、5月に「東京油組総本店<油そば> 浦和組」、6月に「東京油組総本店<油そば> 富山組」及び「香椎組」、7月に「東京油組総本店<油そば> ドーチカ組」、8月に「鶏そば炭や 立川若葉町店」、「野郎めし 吉祥寺店」、「東京油組総本店<油そば> 神戸元町組」、「十割そば 囲炉裏 甲府湯村店」、9月に「東京油組総本店<油そば> 栄組」をオープンいたしました。

製販事業においては、冷凍たこ焼の大手コンビニエンスストア向け卸販売のほか、アイスクリーム製品の販路が拡大し好調に推移いたしました。また冷凍たこ焼については、引き続き海外販路の開拓に積極的に取り組んでおり、今後の需要増加を見越して、群馬県桐生市の冷凍たこ焼工場の隣地に冷凍設備倉庫を新設することを決定いたしました。

海外事業においては、今季日本人選手の活躍が期待され、全世界から注目を浴び盛り上がりつつある米国のプロ野球球団ロサンゼルス・ドジャースと協力し、米国時間3月24日にドジャースのホーム球場である『ドジャー・スタジアム』内に“築地銀だこ”をオープンし、創業以来人気No.1の“ぜったいまい!! たこ焼”「Original (ソース)」に加え、ドジャー・スタジアムでしか味わえない『限定たこ焼』として「Cheese & Salsa (チーズ&サルサ)」、「Cheese & Guacamole (チーズ&ワカモレ)」、「Tempura & Sweet soy sauce (天ぷら&スウィート ソイソース)」を加えた計4種類のたこ焼を発売したほか、ロサンゼルス・ドジャースと複数年のパートナーシップ契約を締結いたしました。また、今後の米国国内での冷凍たこ焼の卸販売等を目的とし、カリフォルニア州をはじめとした米国本土各地及びハワイ州において、日本食や日本酒等とともに“築地銀だこの冷凍たこ焼”のプロモーションを目的とした様々なイベントに参加いたしました。米国内における商社機能を担うHERO USA, Inc. はラスベガスの大手カジノであるウィン・ラスベガスや、カリブ海を拠点とする大手クルーズ会社であるロイヤル・カリビアン・インターナショナルなどのリーディングカンパニーに食包材を納品し、新たな商機を得ております。アセアンではインドネシアに1店舗、フランチャイズによる出店をいたしました。また6月にはベトナムでのエリアフランチャイズ契約を締結いたしました。香港では外部環境の変化が顕在化し、経済全体に負の影響が及んでおります。当社グループにおいてもコロナ禍以来厳しい状態でありましたが、当第3四半期連結累計期間においては各事業が黒字に転じております。引き続き商機を吟味しつつ出店してまいります。

観光地に店舗を多く有する株式会社ファンインターナショナルの運営店舗は、人流の回復やインバウンド需要の増加等により引き続き堅調に推移いたしました。なお出店については、4月に「串焼き満天 六角編」を京都市内にオープンしたほか、京都四条烏丸駅近で天ぷら居酒屋の先駆けとして12年営業してきた「天ぷら海鮮 米福」を移転し、8月8日に「天ぷら寿司海鮮 米福」四条烏丸本店としてグランドオープンいたしました。

さらに“タイムスリップしたような昭和レトロの懐かしさ”を感じていただき、新たな“純喫茶ファン”にも楽しんでいただける、老若男女が様々なシーンで気軽に立ち寄りゆっくと寛げる『純喫茶 ロビンソン』を5月に群馬県桐生市にオープンいたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は33,973百万円（前年同期比19.3%増）、セグメント利益は2,161百万円（前年同期比26.8%増）となりました。

<リゾート事業>

今期より新たに取り組んでいるリゾート事業は、自然に囲まれた群馬県桐生市水沼エリアにて、2023年9月に開業した群馬県産の食材をはじめ様々な焼肉BBQメニューを取り揃えた全天候型「スミテラス 焼肉BBQ」、新鮮野菜やこだわりの卵料理・パンケーキなどお楽しみいただける「シカモアカフェテラス」に加え、新たな飲食施設として

こだわりの十割そばを存分に味わえる蕎麦専門店「十割そば 囲炉裏」をオープンしたほか、本格フィンランド式サウナ、コテージ・グランピングなどの宿泊施設を完備し、日帰り・宿泊など様々なシーンでご利用いただける、滞在型アウトドアレジャー施設「サウナの森 水沼ヴィレッジ」として4月23日にオープンいたしました。なお、当施設のサウナは、サウナ初心者からサウナ愛好家（サウナー）まで楽しめるよう工夫を凝らしており、貸切（プライベート）サウナは国内では珍しいエストニア「HUUM」社の薪ストーブを使用したフィンランド式サウナで、本格的なロウリュを体験・お楽しみいただけます。パブリックサウナ（水着着用・男女混合）は、グランピングテント宿泊者様や日帰りのお客様もお楽しみいただけるサウナで、国産の薪ストーブを使用し、同じく本格的なサウナをお楽しみいただけるほか、全てのサウナに「天然地下水の水風呂」を完備しており、自然の中での外気浴と合わせ、室内では体験できない“贅沢な癒し”を実感していただける施設となっております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は91百万円、セグメント損失は12百万円となりました。なお、リゾート事業は第2四半期連結会計期間より開始した事業であるため、前年同期比を記載しておりません。

(2) 当四半期の財政状態の概況

財政状態の分析

① 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,799百万円増加し、26,513百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が1,106百万円、有形固定資産が1,370百万円増加したこと等によるものであります。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて1,831百万円増加し、14,788百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が増加したこと等によるものであります。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて968百万円増加し、11,725百万円となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益1,253百万円の計上による利益剰余金の増加等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年2月14日付「2023年12月期 決算短信」にて発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,860,928	3,967,032
売掛金	2,401,153	1,739,501
棚卸資産	2,806,218	2,753,788
その他	2,076,921	2,317,842
貸倒引当金	△65,102	△66,402
流動資産合計	10,080,119	10,711,762
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,479,882	6,307,739
その他(純額)	2,362,073	2,904,743
有形固定資産合計	7,841,956	9,212,483
無形固定資産		
のれん	632,813	1,107,653
その他	88,454	64,643
無形固定資産合計	721,268	1,172,296
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,719,607	2,983,268
その他	2,368,521	2,451,006
貸倒引当金	△17,510	△17,143
投資その他の資産合計	5,070,618	5,417,131
固定資産合計	13,633,843	15,801,911
資産合計	23,713,962	26,513,674
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,770,524	1,952,327
短期借入金	2,010,086	1,816,127
1年内返済予定の長期借入金	1,292,728	1,415,564
未払金	1,432,988	1,132,131
未払法人税等	454,644	414,356
賞与引当金	146,104	299,466
資産除去債務	2,490	9,942
その他	1,953,100	1,998,119
流動負債合計	9,062,667	9,038,036
固定負債		
長期借入金	2,148,234	3,837,876
資産除去債務	882,445	959,935
退職給付に係る負債	89,214	94,655
その他	774,490	857,570
固定負債合計	3,894,384	5,750,038
負債合計	12,957,052	14,788,074

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,313,074	3,313,074
資本剰余金	3,180,584	3,184,225
利益剰余金	3,696,616	4,737,357
自己株式	△786,102	△758,380
株主資本合計	9,404,174	10,476,277
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,516	△2,672
繰延ヘッジ損益	881,364	648,618
為替換算調整勘定	△2,267	△4,059
退職給付に係る調整累計額	△10,511	△8,471
その他の包括利益累計額合計	880,101	633,414
非支配株主持分	472,633	615,907
純資産合計	10,756,910	11,725,599
負債純資産合計	23,713,962	26,513,674

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	28,469,039	33,825,050
売上原価	12,259,062	14,850,532
売上総利益	16,209,977	18,974,518
販売費及び一般管理費	14,505,593	16,870,822
営業利益	1,704,384	2,103,695
営業外収益		
受取利息及び配当金	4,328	19,441
為替差益	570,896	241,486
その他	46,797	59,399
営業外収益合計	622,022	320,327
営業外費用		
支払利息	24,503	46,148
支払手数料	5,838	10,214
その他	1,217	3,793
営業外費用合計	31,559	60,156
経常利益	2,294,847	2,363,866
特別利益		
固定資産売却益	45	6,182
受取保険金	—	16,922
特別利益合計	45	23,105
特別損失		
固定資産除却損	68,845	30,822
店舗整理損失	34,674	60,723
減損損失	375,212	147,293
特別損失合計	478,733	238,838
税金等調整前四半期純利益	1,816,159	2,148,133
法人税、住民税及び事業税	707,117	750,669
法人税等調整額	△17,399	△1,942
法人税等合計	689,718	748,726
四半期純利益	1,126,441	1,399,406
非支配株主に帰属する四半期純利益	66,701	146,192
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,059,740	1,253,213

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
四半期純利益	1,126,441	1,399,406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,158	△14,189
繰延ヘッジ損益	262,763	△232,745
為替換算調整勘定	51,561	△4,711
退職給付に係る調整額	1,787	2,040
その他の包括利益合計	322,270	△249,606
四半期包括利益	1,448,711	1,149,800
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,343,078	1,006,526
非支配株主に係る四半期包括利益	105,632	143,274

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年9月30日)

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自2024年1月1日至2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	飲食事業	リゾート事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	33,733,631	91,419	33,825,050	—	33,825,050
セグメント間の内部売上高 又は振替高	240,046	—	240,046	△240,046	—
計	33,973,677	91,419	34,065,096	△240,046	33,825,050
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	2,161,714	△12,703	2,149,011	△45,316	2,103,695

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△45,316千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、これまで単一セグメントでありましたが、第2四半期連結会計期間より滞在型サウナ施設を開業してリゾート事業を開始したことに伴い「リゾート事業」を新たに報告セグメントとして追加し、「飲食事業」と「リゾート事業」の2区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報を当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、「リゾート事業」が第2四半期連結会計期間より追加されたことから開示を行っておりません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

飲食事業セグメントにおきまして、店舗の収益性の低下により建物等の帳簿価額を回収可能価額まで減額した結果、147,293千円の減損損失を計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間における減損損失の計上額は147,293千円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、譲渡制限付株式報酬として2024年5月24日を期日とする自己株式14,479株の処分を行いました。この結果、単元未満株式の買取りによる自己株式の増加を含め、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が27,722千円減少、資本剰余金が3,640千円増加し、当第3連結会計期間末における自己株式は758,380千円、資本剰余金は3,184,225千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	959,855千円	1,026,236千円
のれんの償却額	64,413	64,413

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年11月14日

株式会社ホットランド

取締役会 御中

仰星監査法人

東京事務所

指定社員 公認会計士 金井 匡志
業務執行社員指定社員 公認会計士 道浦 功朗
業務執行社員**監査人の結論**

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社ホットランドの2024年1月1日から2024年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2024年7月1日から2024年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2024年1月1日から2024年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、

職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。